

IV-5 相談窓口の設置

(1) 女性サポート相談室の概要

本事業プランでは、出産・育児・介護等と仕事との両立を支援し、女性が働きやすい環境整備をすることが主要な課題である。そのために、ハード面だけでなくソフト面からの支援も不可欠となる。女性サポート相談室では、岡山大学の常勤、非常勤を問わず女性教職員、女性研究者そして学生の方々が抱える様々な悩みを受け入れ、相談相手、話し相手を得られることを第一義的目的として、2010年1月に開設された。相談内容としては、①出産・育児・介護と仕事の両立に関する問題、②教育・研究・修学環境に関する問題など、③メンタルヘルスに関する問題などである。

①利用対象者

本学の女性教職員・研究者・学生。

ただし、女性サポートなどに関する相談であれば男性の方の相談も可能。

②利用時間

地区	利用時間	場所
津島地区	水・金曜日 10時～12時 13時～16時	環境理工学部2階 キャリアサポート室分室
鹿田地区	月曜日 10時～12時 13時～16時	医学部記念会館3階

③相談員の紹介

小畑 千晴 (おばた ちはる)

臨床教育学博士・臨床心理士

スクールカウンセラー、女性相談所相談員、教職員や学生のカウンセリング等、研究者としての豊富な経験がある。



IV-5 (2) 活動報告

①開設から現在までの経緯

【2009年12月】 女性サポート相談員を採用

相談室開設に向けての具体的な準備の開始。

【2010年1月】 女性サポート相談室開設
鹿田キャンパスでは、医学部記念会館3階の一室を相談室とした。津島キャンパスでは、環境理工学部2階キャリアサポート室分室を相談室とした。開設にあたり、ポスターやチラシを配布して学内に周知を図った。また、大学HPのトップページにて紹介した。
【2010年3月】 山陽新聞に記事掲載
女性サポート相談室の活動に関する記事が掲載された。
【2010年3月】 女性サポート相談室HP開設
男女共同参画室HPのリニューアルに伴い、相談室概要、相談方法、アクセスマップのページを作成し掲載した。
【2010年5月】 第1回キャリアカフェ開催
女子学部学生及び大学院生を対象に実施した。
【2010年6月】 相談室パンフレットの作成
相談室の3つ折りパンフレットを作成した。
【2010年7月】 第2回キャリアカフェ開催 / 女性研究者訪問開始
交流サロンとの合同開催。「育児と仕事の両立 どうな感じ？何が問題？」のテーマで実施した。 岡山大学の女性研究者への訪問活動を開始した。
【2010年9月】 第3回キャリアカフェ開催
鹿田地区女性教職員を対象に実施した。
【2010年12月】 第4回キャリアカフェ開催 / 筑波大学訪問
津島地区女性教職員を対象にキャリアカフェを実施した。 筑波大学の男女共同参画室を訪問し、相談室の活動状況や機能や課題について協議した。また、先進大学の事例を調査した。
【2011年1月】 香川大学訪問 / 島根大学訪問 岡山県男女共同参画推進室訪問
香川大学および島根大学の男女共同参画推進室、岡山県男女共同参画推進室(ウイズセンター)を訪問し、男女共同参画室内相談室としての役割について協議した。また、今後の密接な連携、情報交換などについて確認した。

IV-5 (2) ②相談室の体制

岡山大学には、精神面に関わる相談・支援を行う組織がいくつか存在する。例えば、保健管理センター、学生相談室、ハラスメント相談室、キャリアサポート室などである。本相談室では、特に関係する上記4組織との連携を密に図り、情報交換や相互に適切な相談窓口の紹介を行なえる体制づくりに務めている。

IV-5 (2) ③相談員の専門性と役割

女性サポート相談室に採用された相談員は、臨床心理士の資格を有し、県の女性相談所において心理相談の経験、大学健康管理室のカウンセラーとして学生だけでなく教職員に対する相談など多方面にわたり豊富な経験がある。加えて、男女共同参画における重要な施策の1つであるドメスティック・バイオレンスの防止に関する研究にも取り組んでいた。従って、大学というある意味特殊な環境に関する事情も熟知し、加えて女性の抱えるさまざまな問題の現状と専門知識を有している。

また、個人的にも子育て中の一児の母親であるという立場から、育児や家庭と仕事の両立相談においては、特に共感しやすく、自らの経験や体験に基づいた相談活動を行っている。

相談室の役割として、相談者の連絡を待つという受け身的な姿勢だけではなく、相談室の普及や活用促進のために積極的な活動を担う必要がある。そのために、学部や学科などに拘束されず、また日頃の人間関係や仕事関係に影響のない、ニュートラルな立場にある相談員を交えた、小グループでの「キャリアカフェ」を企画し、女性研究者や職員などが自由に話せる場の設定を定期的実施した。

IV-5 (2) ④相談状況

2010年1月より2011年1月末までの1年間の相談件数及び相談者内訳を表1に示す。延べ相談件数は、74件である。開室初年度ということもあり、相談室の広報を中心に活動したが、学内全体への周知は十分とは言えない状況である。しかしながら、比較的女性事務職員間の中では広がりを見せており、口伝えによって相談に訪れる人が増えている。今後は教員間における広がり期待している。

相談内容に関する傾向は、それぞれの立場によって違いが見られた。学生の相談は、主に進路に関する相談であった。将来、研究者の道に進もうか、あるいは就職した方がよいのかといった、キャリアに関する相談であった。教員の場合は、学生指導上の相談が多く、コンサルテーションとして利用されるケースと、子育てに関する情報提供を求めている。職員の場合は、子育てや仕事との両立に関する相談がほとんどであった。立場により相談内容が異なる一方で、同じ境遇にあり、同じような悩みを抱えている人と話をしたいという共通した意見も見られた。それぞれの所属先で、自由に話したり気軽に相談できるような時間や機会がなく、相談室にすればそうしたネットワーク作りができるのではないかと期待する声も聞かれた。そうした意味で、相談室は相談者と相談員の1対1の関係だけでなく、さまざまな人とのつながりをつくる働きも求められおり、次項で記載する「キャリアカフェ」には、大きな意義があると考えられる。

表1 相談件数及び相談者内訳

		相談件数	相談者	相談者内訳		
				学生	教員	職員
2010年	1月	3件	1人	1	0	0
	2月	7件	3人	1	1	1
	3月	8件	5人	2	1	2
	4月	2件	2人	1	1	0
	5月	9件	6人	3	2	1
	6月	8件	5人	2	1	2
	7月	4件	3人	1	1	1
	8月	3件	3人	0	0	3
	9月	6件	3人	0	0	3
	10月	6件	4人	0	2	2
	11月	10件	7人	3	2	2
	12月	4件	3人	0	0	3
2011年	1月	4件	3人	2	1	0
	合計	74件	48人	16	12	20

IV-5 (2) ⑤キャリアカフェ

女性サポート相談室が主催するキャリアカフェは計4回実施した。目的は、同じ課題や悩みを持つ者が集まり互いに話し合うことにより、何らかのヒントを得たり、情報を収集すること、そして学内のネットワークを作ることである。以下に、第1回から4回までのそれぞれについて概略をまとめる。

○ 第1回目 H22年5月26日(水) 環境理工学部2階 女性サポート相談室

女性研究者および大学院生を対象に、女性として、研究者として、研究者を目指すものとして抱えている不安や困難さについて共有し、また情報交換をすることにより心理的不安の軽減につなげていくことを目的に開催された。参加者2名が女性研究者を目指す学部生および大学院生であったことから、女性研究者を目指す際の不安や課題について意見交換がなされた。その後、相談員からは我が国における支援事業が紹介された。参加者は、厳しい現実にある一方で門戸が開かれつつあることを知り、今後の活動に励みにしたいとの感想があり意欲の高まりへとつながった。同じ課題を持つ人が集まり、考えを言語化することによって、問題を共有することができ、個人への心理的安定につながったと考えられる。

○第2回目 H22年7月30日(金) 大学本部棟5階 会議室(交流サロンとの共催)

男女共同参画の課題の1つである家事と育児の円滑な両立を行うために、体験者および経験者がそれをどう感じ、何が問題であるのか、またどう克服していけばよいのかを考えるための機会とすることが目的であった。今回の交流サロンは、女性サポート相談室が女性研究者を対象としたお茶やお菓子を食べながら自由に意見交換をする場としてキャリアカフェの実施を始めたことから、その要素を取り入れた開催となった。話題提供のために、昨年実施した岡山大学男女共同参画推進に関するアンケート調査の中で、特に支援ニーズに関する紹介が行われた。その後、現在育児と仕事を両立中の社会文化科学研究科教員松本直子、奥平寛子両先生、事務職員の中村美紀子さんより体験談が話され、工夫点、問題点、要望などが語られた。それを受けて、フロアからは、参考となる情報や自分の体験談などが話され、非常に活発な意見交換が行われた。常勤教員で妊娠中の教員には業務軽減の配慮や、他の教員への影響を心配し産休育休を取ることに遠慮を感じていることも指摘され、部局内での教育負担軽減策等のシステム導入が必要であることが課題として挙げられた。

事務職員については、時短勤務の導入によって業務の軽減が進められているが、利用者もその時間内に業務を遂行することの大変さに加え、雇用者側も業務内容により制度の使用に躊躇する面もあることが明らかになった。研究補佐員などの非常勤で任期制の立場にある人では、学童保育や学内保育園の利用料金が高額であり利用しにくい状況にあるため、雇用形態による料金制度の見直しも検討すべき課題であることが明らかになった。

○第3回目 H22年9月29日(水) 医学部記念会館3階 女性サポート相談室

鹿田地区に勤務する女性教職員を対象に、子育てや家庭と仕事の両立に関する困難さや不安を共有することによる心理的不安の軽減と情報交換を行うことを目的に開催された。参加者3名が現在子育て中の女性であり、両立の苦労点について意見交換がなされた。具体的には、悪阻は個人差があるがそれに対する休日制度の充実とともに仕事量の負担の軽減を要望する声や、妊娠・出産に伴う休暇休日制度は存在するが、その使用には職場との兼ね合いもあり躊躇せざるを得ないとの声があった。これらの制度を気兼ねなしに使うための職場の理解を求める意見がだされた。また、育休明けに復帰する際、事前に職場内で相談できる人が見当たらず不安であった。このために、気軽に相談できる人、そのようなシステムがあると心強く、スムーズに復帰でき仕事の能率アップも期待できるなどの意見が寄せられた。同じ課題を持つ人が集まり、考えを言語化することによって、問題を共有することができたと考えられる。また、同じ大学に属し事情をある程度共有理解し、かつ利害関係や評価に関係ない相談者に要望や不満を話すことによって、一時的な不満の解消と後輩の為に職場環境を良くしようとする意欲も湧いてきたと考えられる。問題点の多くは、女性個人では解決できず

職場内の男性の理解と同時に女性の理解を必要とする場合が少なからずある。そのため、こうした会が女性だけでなく男性にも参加を促していく必要があることを痛感した。

○第4回目 H22年12月8日(水) 本学本部棟4階 ミーティングルーム

津島地区に勤務する女性教職員を対象に、子育てや家庭と仕事の両立に関する困難さや不安を共有することによる心理的不安の軽減と情報交換を行うことを目的に開催された。参加者4名中1名が乳幼児を、その他の参加者は小中学生の子供を養育中という状況から、新米ママに先輩ママから両立中の苦労や困窮時の対処法についてアドバイスがなされた。

現在子育て中の立場にある人は、子育て環境の不十分さを強く感じる。しかし、先輩ママ達の子育て中の10年前と比較すると、制度を始めさまざまな部分で徐々にではあるが改善の方向にあることが話題となり、各人多少とも将来に期待を抱くことができたと思われた。同じ職場内で子育て体験や両立の苦労を共有することにより、子育て中の女性の心理的不安の軽減になったものと考えられる。

IV-5 (2) ⑥女性研究者とのネットワークの構築

2010年7月より、学内の自然科学系の女性研究者を対象に訪問活動を行った。目的は、子育て中の女性研究者たちと面談することにより、どのような支援が必要かを聞き取ることと、同時に大学内のネットワークを構築することである。現在(2011.1)までに、4名と面談した。いずれも学内の医歯薬学研究科に所属する30代~40代前半の女性たちであり、子育てしながら常勤教員として雇用され日々頑張っておられる。4人という少ない人数ではあるが、現段階での訪問活動の結果からは、支援制度に関する要望というより、むしろ意識啓発・意識改革を求める声が多く聞かれた。具体的には、「子育て中のため、学内の子育て支援制度を使用したいが、上司の理解が得られない」「夫も同じ研究者だが、私だけが家事や育児をしなければならない」という、女性研究者を取り巻く周囲の人たちへの理解を求める声であった。改善には、当事者である彼女達の努力は当然必要であるが、こうした内容は職場内の人間関係やパートナー間だけの問題ではなく、社会全体の問題でもある。そのために大学としても強く働きかけをする必要があると考えられる。既に男女共同参画室を始めとして次世代育成支援室においても、女性研究者の両立支援や男性の育児参加への啓発活動が既に実施されてきたが、未だ十分に浸透しているとはいえない結果であると考えられる。従って、こうした声を反映すべく、男女共同参画室の交流サロンやシンポジウムの方などで訴えていきたい。

IV-5 (2) ⑦県内外の関係機関とのネットワーク構築

○筑波大学 H 22 年 12 月 3 日(金)

対応者： 男女共同参画推進室 准教授 遠藤雅子氏 相談員 沖永友貴枝氏

女性研究者支援モデル育成事業の一貫として開設された相談室の活動状況と抱える課題について協議するとともに、先進事例について学んだ。筑波大学の相談室「あう」の活動状況について沖永相談員の紹介の後、岡山大学の女性サポート相談室の取り組みについて説明した。相談員は、職務内容や同じ専門職のスタッフが同室内に不在するなどの理由から、孤立する場合が多い。また事業内の相談室という特殊性により、他所属の相談員への理解も得られにくい。従って、今後は必要に応じて両校の相談員が連携していくことが確認された。新規形態の相談室として、通常の相談員の業務以外にも、相談員から女性研究者を始めとして大学内のさまざまな部署の方々と積極的に関与する必要がある。特に、既存の学内相談室との差別化を明確にする必要があり、学内教職員に理解を深めてもらえる努力が必要であることが、共通課題として確認された。

○香川大学 H 23 年 1 月 14 日(金)

対応者： 男女共同参画推進室 特任教授 長安めぐみ氏

女性研究者支援モデル育成事業の一貫として開設された相談室の活動状況と抱える課題について協議した。長安めぐみ特任教授が、他の業務と兼務しながら相談活動にあたり、それとは別に工学部内に設置された相談室で非常勤心理士 1 名が週に一度、相談業務を担当していることなどの説明を受けた。互いの活動状況について情報交換や意見交換を行うことにより、男女共同参画室における相談活動の内容、役割の重要性について共通認識を得ることができた。とりわけ、男女共同参画推進室の相談室としての定義付けを明確にし、その役割とスムーズな活用のためのシステム作りが必要であるとの共通認識を得た。そのために、今後両大学が密接な連携のもとに様々な課題で検討していくことが確認された。

○島根大学 H 23 年 1 月 18 日(火)

対応者： 室長 澤アツ子氏、 特任講師 大西俊江氏、 草野知子氏

澤アツ子教授より、本モデル事業における相談室の位置づけおよび役割について説明を受けた。その後、相談室の相談員である大西俊江特任講師、草野知子特任講師から、相談室の体制、具体的な取り組みの経過、相談内容および件数、今後の課題について説明された。島根大学の 2 つのキャンパス（松江地区と出雲地区）のそれぞれに相談室を開設し、5 名の非常勤臨床心理士が「女性支援カウンセラー」として活動に従事されている。島根大学名誉教授でもある大西先生を中心として、日頃顔を合わせない勤務体制の中でもカウンセラー同士の連携がスムーズに行われており、また大学内にある他の相談センターとも円滑な協力体制が整っていた。これまで、国立大学の男女共同参画推進室などに設置された相談室の担当者が相互に連携を図り、情報交換するための機会がほとんど皆無であった。

学内における他の相談室とは、ある程度連携できる部分があるが、趣旨が異なる部分もあり、問題を共有しにくい点もみられた。今後とも相談件数が増加すると考えられることから、同じ趣旨を持つ相談室として大学間の連携を図ることが必要であり、そのためのネットワーク作りの重要性が確認された。

○岡山県男女共同参画推進室 ウイズセンター H 23 年 1 月 19 日(水)

対応者：所長 水野洋子氏 相談員 国田郁美氏 永井律子氏 妹尾敬恵氏

岡山県男女共同参画推進室の取り組み全体について、水野所長より説明を受けた。男女共同参画に関わる相談活動や情報提供が主な機能であり、そのうち、女性相談員による生き方や家族・夫婦などの悩みの相談では、年間 6000 件の相談が寄せられていた。その内容は多岐にわたり、必要に応じて法律相談や医療相談および県内の他機関（女性相談所）などとも連携しながら対応しているとのことであった。相談内容に関して、担当相談員 3 名と情報交換を行ったところ、岡山大学と関連する事項もあるとのことから、今後は必要に応じて連携していくことが確認された。

女性サポート相談室ポスター

平成 21 年度 文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

女性サポート相談室

<利用時間>
10:00 ~ 16:00

<津島地区>
水曜日・金曜日
環境理工学部 2階
キャリアサポート室分室

<鹿田地区>
月曜日
医学部記念会館 3階

<総合受付> Mail相談OK!
E-mail: support-w@adm.okayama-u.ac.jp
Tel: 086-251-7011 (男女共同参画室)
*利用時間以外の受付も行っています。
(平日 8:30 ~ 17:15)

相談員: 小畑 千晴 (おばた ちはる)
臨床教育学博士・臨床心理士

女性サポート相談室 QRコード

本学に所属する女性教職員・女性研究者・女子学生の方を対象に、女性だからこそ抱えるさまざまな悩みや不安に答えるための相談室を開設しました。
(但し、女性サポート等に関する相談であれば、男性の相談も受け付けます)

例えば...

- キャリア確立に関すること
 - ・どのように業績を積み重ねていけばいいかわからない
 - ・「研究者」にはなりたいが、大学に残るべきか、就職するべきか
- 結婚・妊娠・介護等 ライフプランに関すること
 - ・子供を出産予定だが、育児休業を取得できる雰囲気ではない
 - ・仕事と家庭の両立、育児や保育、介護について
- 日頃のちょっとした不安や悩みなど

岡山大学 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室